

# 社会科（地理的分野）学習指導案

## 1 単元名

「日本の諸地域 文化から見る関東地方 ～なぜそんなところに〇〇〇～」

## 2 単元の考察

### (1) 単元観

#### ① 関東地方と「文化」的施設

関東地方には現在約4千万人もの人々が生活をしており、これは日本の総人口の約3分の1にあたる。関東地方の地域的特色を考えた時、当然ながら首都東京を中心とした大都市圏の構造が見えてくる。その影響は政治・経済はもとより、産業・交通・文化など多岐にわたるが、今回の単元において特に注目したいのは、「文化」的施設の広がりである。膨大な人口を抱える関東地方には、企業や商業施設などのように多くの人々を集めるものが多数存在している。その中でも、大学が256校（全国で782校）、コンサートホールが60軒（全国で193軒）といったように、「文化」に関する施設を多く見ることができ、これは関東地方の大きな特色の一つになっている。多様で多彩な関東地方の特色を「文化」という視点から動的にアプローチし、その地域的特色に迫りたい。

本単元は学習指導要領の「(3) 日本の諸地域 ⑤その他の事象を中核とした考察の仕方」に対応し、「文化」を中核とし、「文化」に関連した施設を自然環境、歴史、人口、産業などに関連づけながら考察することによって関東地方の地域的特色に迫れるように構成した。

#### ② 「文化」に関連した施設について

##### (i) 「テレビ局」から考える都市圏

例えば「文化」に関連した施設として、「テレビ局」から関東地方を見ていくと、関東地方の東京都以外の県では地上波民放のテレビ局は1社程度ずつしかなくとも関わらず、東京都には6社も存在しており、情報発信の場が東京都に集中していることがわかる。これは、取材対象である国会や内閣といった政治の中核機能が東京都に集中していることに関連しており、同じ傾向は新聞社や出版社にも見られる。東京都以外の県に複数のテレビ局が存在していないのは、東京都から発信されるテレビ局の情報を直接受信できるからであり、内容も汎用的で幅広いものが放送されている。一方関東地方の東京都以外のテレビ局では、比較的ローカルな内容の放送、例えば千葉県であればゴルフ番組が多いなど、地元のスポンサーの影響を強く受けたような番組が放送されている。そういった各県のテレビ局のことを「独立放送局」と呼ぶ。それに対して東京都にある6社のうちの5社を「キー局」と呼び、キー局が発信した放送をもとに、関東地方に限らず全国各地にある系列局が同じ放送を流している。そのため、番組内容も関東だけに留まらず、全国各地の幅広い内容が放送されている。ちなみに「独立放送局」があるのは、関東以外だと、岐阜県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県であり、東京、名古屋、大阪といった大都市圏に見られる共通の特徴とも言える。その地域で放映されるテレビ欄の構成を比較し検討することで、「テレビ局」から関東地方における東京都と各県のつながり、そして、全国とのつながりといったものが見えてくる。

##### (ii) 「スタジアム」から考える都心と郊外

サッカーや野球といったスポーツが行われる「スタジアム」の存在からも、関東地方の特色を見ることができる。例えば、世界では、アメリカのニューヨークにある「ヤンキーススタジアム」、オーストラリアのシドニーにある「ANZスタジアム」のように都心部に巨大なスタジアムが建設されていることがあるが、東京では新国立競技場が建設されているものの、その他には日常的に使

用され、かつ大きなスタジアムがあまり見られない。ラグビーワールドカップや東京オリンピックで使用される「東京スタジアム」は東京都の調布市にあり、全国で一番収容人数が多い「横浜国際競技場」は横浜市港北区、二番目の「埼玉スタジアム 2002」はさいたま市緑区にあり、いわゆる「郊外」に建設されている。これは、都市計画で大規模なスタジアムなどのスポーツ施設を造る場合は、当然広大な土地を必要とし、都心の様々な施設がすでに密集した場所には作ることが難しく、ある程度土地の余裕がある「郊外」に建設されたと考えられる。例えば、東京スタジアムはもともと隣接する調布飛行場を利用して建設されたものである。もととなっている飛行場から考えても、滑走路などを確保しなければならないため、広大な土地が必要であったと考えられる。過去と現在の調布飛行場周辺の地形図を見てみると、飛行場周辺にはこれまで農地や丘陵地ばかりであったが、現在に至りスタジアムだけでなく、住宅街や学校、病院などが時代と共に建設されていることを読み取ることができる。これこそまさに「都市圏」が造られていく過程である。一方で「東京ドーム」や「神宮球場」のような都心の一等地に造られているものも例外的に存在している。これは、フランチャイズのチームやそのスタジアムができた歴史的経緯や日本におけるそのスポーツの影響力の高さも関係してくるが、特にそこで行われる競技の運営の性質から説明できる。例えば「東京ドーム」ではプロ野球が主に行われるが、プロ野球はシーズン中に毎日のように試合が行われ、年間140試合以上が行われる。そのため多くの観客を呼ぶために、人々が気軽に立ち寄れる場所にあることが重要となり、企業などが集中し交通の便の良い都心に存在している。それに対してプロサッカー（J1）であれば年間40試合程度、週に1、2試合程度しか開催されないため、都心と直接つながる交通手段があれば、郊外の住宅地の近くのスタジアムであっても収益が見込める。このように「スタジアム」を見ていくと、様々なものが集中する都心とそこから派生した郊外とのつながりが見えてくる。

### （iii）大学から考える都心と郊外

「スタジアム」の構造に似た構造が「大学」のキャンパスの立地にも見られる。1960年代まで人の集まる都心にキャンパスが建設されることが多かったが、経済成長に伴って大学進学率が高まり、都心の限られた範囲のキャンパスでは手狭になっていった。各大学はキャンパスを拡張し定員の増加をしようと試みたが、都心の一極集中を防ごうとする国の政策もあり都心での拡張は不可能になっていた。そこで行われたのが、キャンパスの郊外移転である。これは広大な土地を使用して増加する生徒を受け入れるだけでなく、都内の各地にキャンパスが分散し、非効率となっていた状態を解消させる効果があった。この代表例としては八王子市の中央大学やつくば市の筑波大学が挙げられる。このような動きは、国や大学の方針に合致しただけでなく、市民講座の開設や、大学生が生活することによって生まれる経済効果などの、地域貢献というメリットも生み出した。また、鉄道会社にとっても郊外から都心へのいわゆる「通勤・通学ラッシュ」の解消にもつながり、逆方向の流れを生むことができた。しかし、近年では都心部での学部増設や定員増加が認められたこともあり、都心への回帰が増えてきている。やはりその背景にあるのは都心部の利便性である。鉄道を中心とした交通網が発達し、商業施設や遊楽施設などの若者が好むものが集中する都心部にキャンパスを再移転することによって、少子化で減少している入学希望者を少しでも増やそうとする大学の意向を見ることができる。大学の都心回帰現象に関しては、賛否様々なことが言われているが、東京理科大の経営学部のあった久喜市がキャンパスの移転に伴い、「長年養ってきた市と大学の信頼関係を損なう行為」といった意見を表明するなど、郊外地域においては大学がいかに大きな存在になっていたかがわかる。

### （iv）博物館から見る都市圏

以上のように「テレビ局」「スタジアム」「大学」といった「文化」に関する施設を見ていくことによって、東京都に見られる様々な面での集中の様子、また人口や産業、交通における郊外と都心

とのつながりといった都市圏の構造について考えることができる。その特徴がさらに顕著に表れるものが「博物館」である。博物館法によると、『博物館』とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関」とある。その名の通り様々なものを取り扱っており、設置してある地域の自然環境、産業、歴史などを見ることが出来る。日本博物館協会によると関東地方には732館もの博物館があり、関東の広い地域でその存在を確認できるため、関東地方の特色に迫る有用な教材となり得ると考える。例えば、東京都だけでも237館もの博物館があり、他道府県と比較しても圧倒的に多い。さらに総合ユニコム調査(2018)によると日本全体の「ミュージアム来場者数ランキング」の上位3位は「国立科学博物館」「国立新美術館」「東京国立博物館」と全て東京都にある施設であり、どれも200万人以上の来場者を記録していることも併せると、東京都が多くの人々を集める地域だということがわかる。また、来場者の内訳を見ていくと外国人の割合が4割程度を占めており、日本国内だけでなく、国際的な繋がりも見えてくる。また、東京都には「国立」の施設が複数存在している。上記のランキングの上位3位は全て国立のものである。独立行政法人日本文化財機構が運営する国立の博物館は東京以外だと、京都、奈良、九州にある。これらの地域の共通点としては、日本の歴史において政治の中心であったと考えられている地域であり、周囲には重要な文化財も沢山残っている地域でもあるということ、また、外国との交流も長く行われている地域であるという共通性がある。これは「県立」に置き換えても同じようなことが言える。分布を見ても、「県立博物館」などの比較的大きな施設の多くは、県庁所在地やその県の経済や歴史的な中心地に存在していることが多い。近年では、「金沢21世紀博物館」のように地方の博物館でも多くの来場者を集めているものもあり、改めて観光資源としての価値が見直されている。すなわちこのような「国立」「県立」博物館の立地から、東京大都市圏の全国への広がりという構造が、また東京以外の地方における都市圏構造に迫ることができる。

さらに他地域では見られないような特徴的な博物館を個別に見ていくと、その地域の地域的特色が見えてくる。例えば千葉県であれば南房総市にある「千葉県酪農のさと」の中に「酪農資料館」という施設がある。千葉県は酪農発祥の地としても知られている。千葉県には古くから馬牧場が多数存在し、江戸時代には、幕府直営の馬や牛牧場があり、8代将軍・徳川吉宗の命令で乳牛(白牛)が飼育されていた記録もある。明治時代に海外から近代酪農技術を最初に導入・実験されたのも千葉県の牧場であった。しかしなぜ、千葉県なのか。それは房総丘陵によって平坦な広い高地を確保しづらいこと、そして比較的涼しい気候が酪農に適していたこと、そして、大消費地である東京都に近く、新鮮なまま乳製品を運ぶことができることが挙げられる。こういった大都市近郊の立地を生かした博物館は、千葉と同じように東京都に隣接している埼玉県や茨城県にも見ることができる。

また博物館を別の視点で見えていくと、神奈川県箱根町、群馬県草津町、栃木県那須塩原市などに、その地域の自然環境やそこから関連する伝統的な産業や文化とは関係なく、なおかつ周囲のものとの共通点もないような、「トリックアート」や「西洋人形」などを集めた美術館が多数存在していることがわかる。その背景として考えられる共通点は、都心からの集客を集める観光地となっていることにある。これらの地域は日本でも有数の観光地であり、多数の来客を見込めることから、その地域の産業や文化を研究するようなものよりも、観光客の関心を引くようなタイプの美術館が多数存在していると考えられる。江戸時代後期には、箱根や草津などの温泉旅行が庶民の間でブームとなり、温泉番付やガイドブックのようなものが作られるようになり、江戸から比較的近い箱根にも多くの観光客が訪れていた。明治から昭和にかけて、鉄道を中心に交通網が発達したことによって、都心や郊外からさらに離れた草津や那須塩原へも人々が向かうことができるようになり、観光地として発展した。つまり、観光地に伴った美術館の分布を見ていくことによって、関東地方における都心と郊外、さらにその周りの地域における交通や産業、人口のつながりを考えることができる。

### ③関東地方の地域的特色と単元構成について

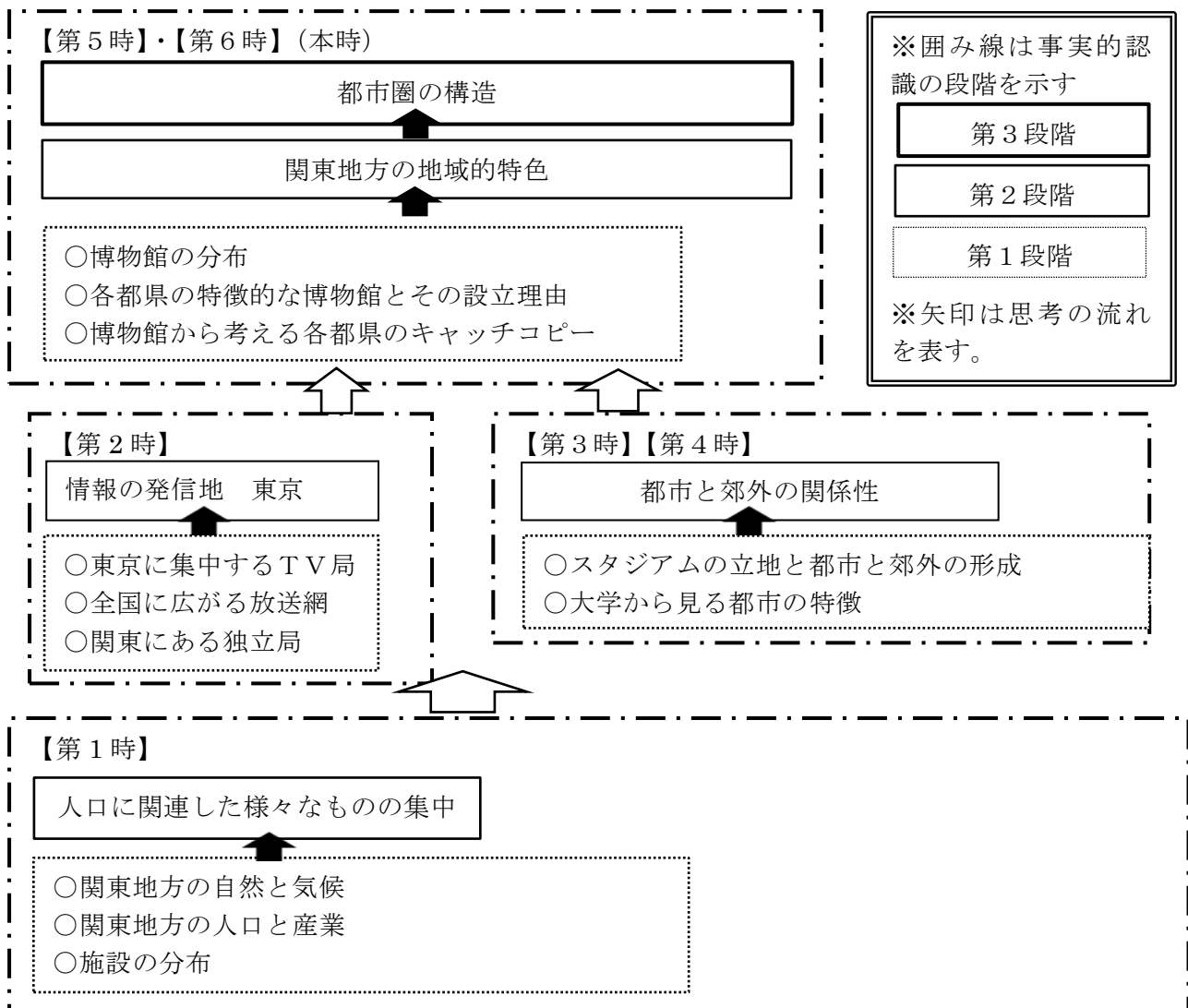
上記のことから関東地方は、東京都心、その周辺のベッドタウンとして都市化した地帯、そしてさらにその周辺の都市や農村が点在する地帯といったように、東京を中心とする同心円的な地域構造が形成されていることがわかる。東京都心といった第一地帯は官公庁や日本を代表する企業の本支社、商業施設、教育・文化施設など、日本全国や海外にも影響を与えるようなものが集中している。第一地帯周辺の第二地帯は、第一地帯の一部として成長し、第一地帯に向かっていくための交通網やそれを利用する人たちのためのベッドタウン、第一地帯や全国、または世界へ製品を出荷するための工業地域などが形成された。第二地帯よりさらに外側の第三地帯では第一地帯だけでなく第二地帯に属する都市などの影響をうけ、交通網や市街地、観光施設などが形成されている。また、都市向けの生産及び出荷がなされている農業、いわゆる近郊農業が行われるための農地が多く見られ、工業の面では内陸型の工業団地が形成されている。

本単元では、第1時に白地図などの作業学習を通して関東地方の自然環境や産業、人口分布などを学び大観することで、関東地方の学習の方向性をつかませるようにする。第2時ではテレビ局の数やテレビ欄の構成、番組内容の比較を通して、東京の首都機能の集中や、東京都市圏の範囲やその影響の広がり、また全国とのつながりを考察する。第3時では東京スタジアムを題材とし、調布市周辺の地形図を時代の変化から比較することによって、郊外と都心の形成課程とその現状について考える。第4時では前時に学んだ郊外地域の広がりを元に、現在は逆の現象、つまり都心への回帰が起こっていることを大学の立地を通して学ぶことで、改めて都市化の構造について考える。第5時では、関東地方の特徴的な博物館がなぜそこに設立されているのかを、第1時から学んだ特徴と関連させながら生徒が調べ、考える。第6時ではそれを共有する。そして単元を通して学んだ各都県の特徴を、キャッチコピーでまとめる。そこから関東地方の地域的特色である「大都市東京を中心とした都市圏の構造」について思考が深められるよう意識し、単元を構成した。

## 3 単元の目標

- ・関東地方の自然、歴史、人口、産業、交通などの特色についてグラフや資料などを用いて読み取り、理解することができる。 **【知識・技能】**
- ・関東地方の自然、歴史、人口、産業、交通などから、都市圏の構造について考察し、特色を適切に表現することができる。 **【思考・判断・表現】**
- ・関東地方の地域的特色を、「文化」に関連した施設を中核に、自然、歴史、人口、産業、交通などに関連づけながら意欲的に追究することができる。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

#### 4 思考の深化に対応した単元の指導計画



#### 5 本時

##### (1) 本時の目標

##### 【第6時】

- ・ 関東地方の地域的特色について考察し、適切に表現することができる。

【思考・判断・表現】

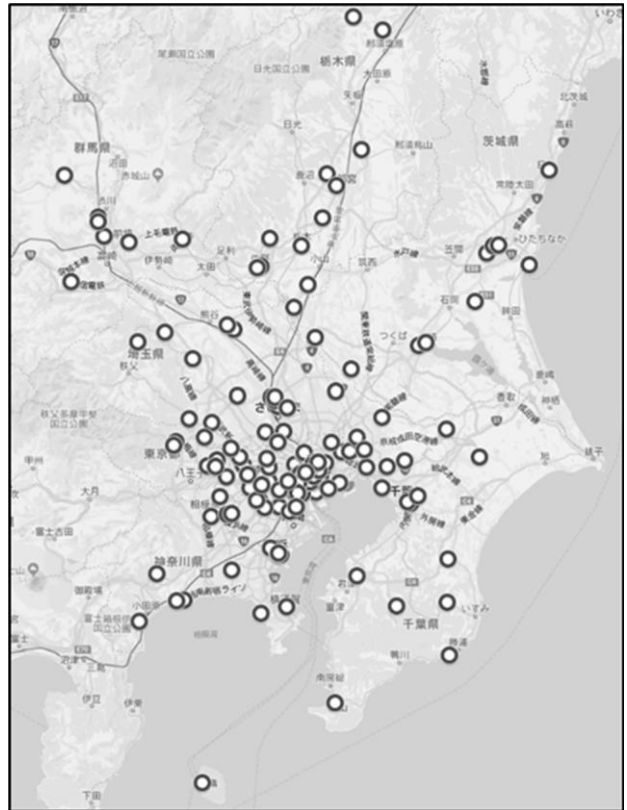
- ・ 関東地方の地域的特色について意欲的に追究することができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

## (2) 本時の「主体的な学び」

### ① 【関東地方の博物館分布】

2019年の日本博物館協会のデータなどを参考にして作製した。東京都や各県の中心にポイントが多く分布していることが読み取れる。しかし、これが博物館の分布であることをすぐ理解できる生徒は多くないと考えられる。「これが何の分布なのか」ということが、生徒たちの学習意欲を喚起すると考えられる。他の地図なども関連付けながら考えさせたい。




### ② 【酪農が盛んな地域】

右の表は平成30年の畜産統計をもとに作成したものである。北海道や岩手県など、比較的冷涼な地域で行われていることがわかる。生徒たちにとって、千葉県は冷涼な地域というイメージはあまりないかもしれない。標高がわかる地図なども関連させたい。また、表中には栃木県、群馬県、千葉県と関東地方に属している県が多い。乳製品の性質を考え、消費地まで素早く運ぶ必要があることがわかる。そして、三つもの県が生産しているということは、それだけの消費が行われている地域、つまり東京都が近くにあるということが考えられる

順位	県名	乳牛頭数
1	北海道	790,900
2	栃木	51,900
3	熊本	42,800
4	岩手	41,900
5	群馬	34,800
6	千葉	30,300

### ③ 【各都県別の特徴的な博物館の資料】

<p>名称：歯の博物館</p> 	<p>住所：横浜市中区住吉町 6-68</p> <p>【概要】            歯科治療の歴史を紐解く貴重な資料が所蔵されている。開国により横浜に来日した外国人によって日本最初の歯科医院が開業した。お歯黒の歴史や江戸時代の歯磨き粉・歯ブラシ、抜歯と麻酔など日本の歯科に関する歴史がわかる。</p>
---	---

分布を見るだけでなく、具体的にどのような博物館があるのかということを見ていくことによって、なぜその博物館がそこにあるのかという疑問が生まれ、生徒が意欲的に学習していくことにつながるだろう。

### (3) 本時の「対話的な学び」

#### ①【第1回内国勸業博覧会に関する資料】

太政大臣 三条実美殿

明治8年に万国博覧会の担当事務局を、博物館に改称して内務省に移す様ご指示がありました。(中略)この博物館についてご報告いたします。

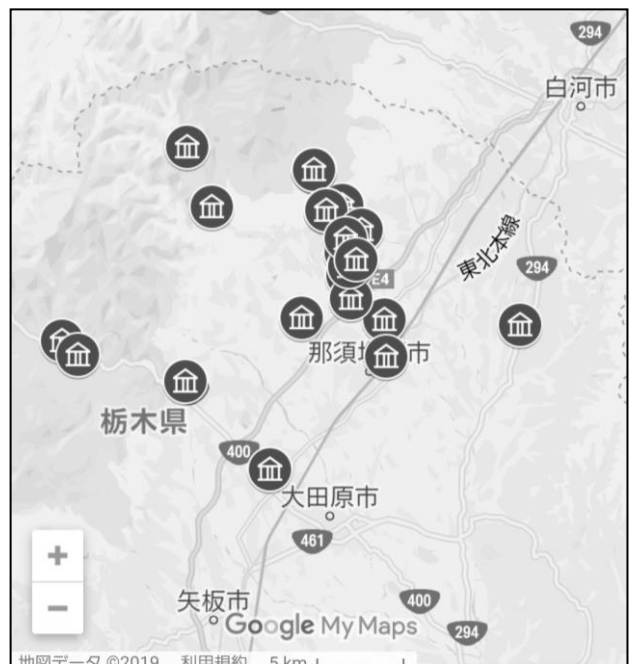
博物館の大切な点は、天然・人口、国内外、新しいもの古いものを一カ所に集め、それがどの様なものであるか、どの様に用いるかを明らかにして人々に見せ、技術を広めることである。目から見るのが、心をうごかし分別の力を育てる。古くより「百聞は一見にしかず」とある。人の知識を広め、技術を進歩させる館淡々な道は、この目からの学びのみである。人の知識を広め、技術を進歩させる簡単な道は、この目からの学びのみである。(中略)博物館はその周辺を大きな公園として、動物園や植物園を設ける。ここで遊ぶと楽しいだけでなく目での学習をして知らない間に文明開化に進んでいけることが重要なのである。

明治8年 8月14日 内務卿 ( 大久保利通 )

上の資料は、明治8年に大久保利通が三条実美に送った報告書の一部である。趣旨は、イギリスが万博を開催したのちに、いかに殖産興業が進んでいったのかというものである。原文では難しいため、翻訳をし、一部を掲載している。そこから、大久保が常設の博物館を建設すること切に必要としていたということや、日本の最初の博物館がこういった性格を求められたかを読むことができる。

#### ②【栃木県的那須町付近の博物館分布】

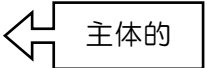


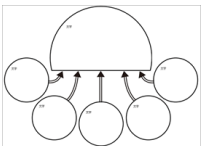
「博物館は、その地域のことを知るためのものである」ということと、都心や各県の中心地に多く分布しているということを学んだ上で、この資料を見ると、なぜ「那須」という関東でも端の地域にこんなに多くの博物館が分布しているのかという疑問が生まれるだろう。また、これらの博物館がトリックアートやテディベア、クラシックカーを展示しているものだと知ると、より疑問が生まれてくると考えられる。なぜそういった博物館があるのかを他の資料と関連させ、他の生徒と対話をさせながら考察させたい。



(4) 本時の展開【第5時】・【第6時】(本時)

時配	学習内容と活動内容	留意点 (○) 及び評価 (◇)
第5時		
導入 5分	<p>○関東地方の博物館の分布を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東京に集中している。</li> <li>・県庁所在地にいくつかマークがある。</li> <li>・中心だけでなく端の方にもある。</li> </ul>	<p>【本時の「主体的な学び」 : ①関東地方の博物館分布】</p> <p>○スクリーンに投影する。</p>
展開 35分	<p style="text-align: center;"><b>【学習課題】なぜ、そんなところに博物館～博物館から関東地方の特色に迫ろう①～</b></p> <p>○東京都に国立の博物館が複数あることを確認する。</p> <p>○なぜ東京都には「国立」の博物館があるのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江戸時代から政治や経済の中心だから</li> <li>・人口が集中して、沢山の来館者が見込めるから</li> <li>・大学と研究協力をしているのではないだろうか。</li> <li>・国の政治の中心地であることが関係しているのではないだろうか。</li> </ul> <p>○「第1回内国勸業博覧会」に関する明治時代の資料から、博物館がどのような機能をもった施設であることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立博物館は日本全体に関わる展示だから、日本の中心である東京に多いと考えられる。</li> </ul> <p>○他県の都市でも「県立」の博物館があることを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「国立」と同じようにその地域のことが展示されているため、その地域の中心になるようなところに設置されているのではないだろうか。</li> </ul> <p>○栃木県那須町付近にトリックアート美術館が集中していることを知る。なぜ、そこにあるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域とは関係なさそう。</li> <li>・美術館の近くに有名な観光地がある。</li> </ul> <p>→観光産業の一部になっているのではないか。</p> <p>→博物館の立地から地域の特色を考えることができる。</p> <p>○資料から「酪農のさと 酪農資料館」が関東地方のどの県にあるのかを考える。</p> <p>→千葉県</p> <p>○資料からなぜ千葉県が「酪農のさと」となるのかを考える。</p>	<p>◇博物館から見える関東地方の地域的特色について意欲的に追究することができる。</p> <p>○根拠となる資料やデータについても述べられるようにする。</p> <p>【本時の「対話的学び」 : ①第1回内国博覧会に関する資料】</p> <p>○原文では難しいため、意識した内容のものを生徒に見せる。</p> <p>【本時の「対話的学び」 : ②栃木県那須町付近の博物館分布】</p> <p>◇博物館から見える関東地方の地域的特色について考察し、適切に表現することができる。</p> <p>【本時の「主体的な学び」 : ②酪農が盛んな地域】</p>



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東の県が3つも入ることから、大消費地である東京に近いことが関係しているのではないか。</li> <li>・房総丘陵が畜産に適していた。</li> </ul>	○標高がわかる地図なども参考にさせる。
まとめ 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○博物館の立地や展示内容から、地域の特色が理解できることを確認し、次回の課題を把握する。</li> <li>・割り振られた都県の博物館について調べ、その地域の特色を考える。</li> <li>・班内で意見を持ち寄り、各都県の特色を考え、発表の準備をする。</li> </ul> <div style="text-align: right;">  </div>	<p>【本時の「主体的な学び」： ③各都県別の特徴的な博物館の資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○班ごとに都県を分担する。</li> <li>○都県別の資料を配布し、班内でも博物館を分担する。</li> <li>○各自家庭学習で行う。</li> </ul>
第6時（本時）		
導入 20分	<p>【学習課題】なぜ、そんなところに博物館～博物館から関東地方の特色に迫ろう②～</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班ごとに、博物館から見える地域的特色を発表する。</li> </ul> <div style="text-align: right;">     </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班2分程度に発表内容をまとめる。</li> <li>○各博物館やそこに関連する地域の産業、自然環境、歴史などの写真をモニターに提示する。</li> <li>○千葉県は割り振りをしない。</li> </ul>
展開 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今までの学習を踏まえ、関東各都県の特色をまとめ、そこからキャッチコピーを考える。</li> <li>○考えたキャッチコピーを、掲示した関東地方の白地図に各自が張り付けていく。</li> </ul> <p>(例) 東京のスーパーマーケットちば 理由：身近にあり、農業、水産業、工業などさまざまなものが揃う。新鮮なまま商品が出荷される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇関東地方の地域的特色について考察することができ、適切に表現することができる。</li> <li>○【クラゲチャート】を用いて整理する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○博物館で調べた都県を優先的に考え、他の県も考えるようにする。</li> </ul>
まとめ 10分	○各都県のキャッチコピーを見て、関東地方の地域的特色をまとめる。	○机間巡視をし、何人かの生徒に発表をさせる。

### (5) 本時の評価

- ・関東地方の地域的特色について考察し、特色を適切に表現することができたか。

【思考・判断・表現】

- ・関東地方の地域的特色について意欲的に追究することができたか。

【主体的に学習に取り組む態度】

## 6 思考の構造図

### 【事実的認識の第3段階】

大都市には人口が集中し、その周辺には産業や居住地域、交通網などが、その都市を中心として同心円状に発達する都市圏が形成されていく。



### 【事実的認識の第1段階・第2段階】

- A 千葉県が、日本における酪農発祥の地であり、酪農に関する資料館があるのは、酪農に適した地形と気候であり、大消費地である東京都との立地に関係している。
- a 千葉県における酪農の歴史。
  - b 酪農が盛んな地域から見る共通性。
  - c 千葉県の気候と地形。
  - d 人口が集中する東京都との距離。
- B 「トリックアート」のようなリゾート系美術館が栃木県、群馬県、神奈川県に多いのは、近隣に日本でも有数の観光地があることと、都心からそこへ向かうための交通網が発達したためである。
- a 統一性のない美術館の集中。
  - b 他の観光地との位置関係。
  - c 東京から放射状に延びる交通網。
- C 国立博物館が東京都に多いのは、国立博物館の展示内容が日本全体に関わることであり、日本の中心に設置される必要があるからである。
- a 東京には大小合わせて沢山の博物館がある。
  - b 大きな博物館は都心にある。
  - c 都心には特に人口が集中している。
  - d 都心には官庁や大学などの様々な施設が集中している。
  - e 関東地方の各県にある大きな博物館も、都市にあることが多い。



### 【事実的認識の第1段階・第2段階】

- D 入学希望者をより多く確保するため、近年キャンパスを郊外から都心に移転する大学が出てきている。
- a 大学のキャンパス移転。
  - b 「工業等制限法」の成立と廃止。
  - c 都心の土地利用の変化。
  - d 18歳の人口と大学数の変化。
- E サッカースタジアムは、スペースや収益の関係から、都市よりも少し離れた郊外に作られることが多い。
- a ラグビーW杯の開幕戦や東京五輪のサッカーは、東京スタジアムで行われる。

- b 東京スタジアムの所在地は調布市であり、中心の 23 区から離れている。
- c 東京スタジアムは調布飛行場の跡地に建設された。
- d 以前は飛行場周辺は農地や丘陵地しかなかった。
- f 日本の経済成長とともに住宅街が造られていった。

F 全国のTV放送系列の中心となっているTV局や番組制作会社が東京に集中しているため、情報の発信地となっている。

- a 東京には全国で一番TV局が集中している。
- b 各県には複数のTV局が存在しているが、東京以外の関東地方の県には1局程度しかない。
- c 千葉には「全国独立放送協議会」に加盟している「千葉テレビ」がある。
- d 「全国独立放送協議会」には13のTVが参加しているが、その半分近くは関東地方である。
- e 関東地方の県は東京から直接情報を受信できる地域である。
- f 東京のTVが中心となって、全国に系列のTV局を作っている。



**【事実的認識の第1・2段階】**

G 人口が多いため、様々な文化に関連する施設が集まっている。

- a 中央部には関東平野があり、北部と西部には関東山地が広がっている。
- b 山地からは関東地方の生活を支える複数の川が広がっている。
- c 主な気候は、冬に乾燥し夏に降水量が多くなる（太平洋側の気候）。
- d 第1次産業から第3次産業までどれも盛んである。
- e 日本の総人口の約3分の1が関東地方に集中している。
- f 様々なものの集中。
- g 地価の高騰。
- h 様々な文化に関連する施設の分布。